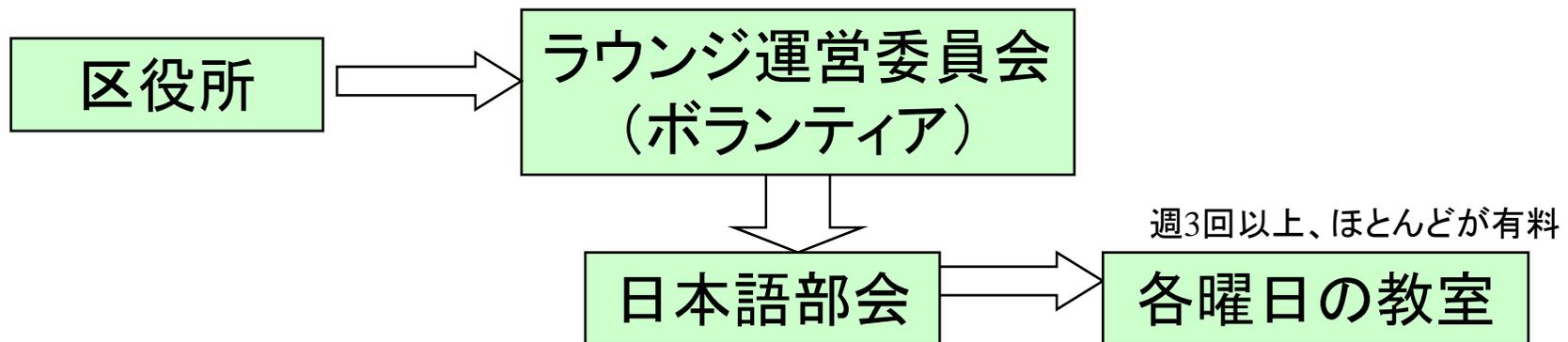


地域の日本語教室から～横浜市の場合～

■国際交流ラウンジの典型的な例



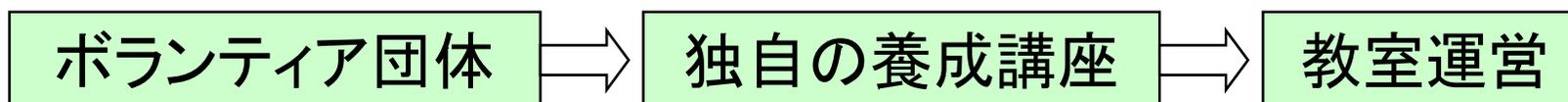
【課題】

- ・日本語ボランティア指導者の負荷(授業以外の役員仕事、イベント参加など)
- ・日本語ボランティア指導者の動機付け(生活サポート窓口と連携する意欲)
- ・専門コーディネーターの不在(曜日代表者による順番制などで代行)
- ・養成講座の企画・運営の負荷(ボランティア役員による企画・運営)
- ・運営費の捻出(ボランティア指導者への交通費、ボランティア役員への報酬)

地域の日本語教室から～横浜市の場合～

②

■ボランティア教室の例



【課題】

- ・教室の恒常的な確保
- ・日本語ボランティア指導者の確保
(なかなか定着しない)

教室の回数

週1	38
週2	11
週3	4
週4以上	2
不明	7
計	62

教室の会場

地区センター・市民活動センター等	18
その他	12
ケアプラザ等福祉施設	11
県民センター	9
教会	5
団体事務所	4
学校・コミュニティハウス	3
計	62

※多くの団体が10人程度の学習者を対象に週1回程度の授業を行っている。62団体中44団体が有料。

※(財)横浜市国際交流協会ホームページ「日本語教室ボランティアマップ」「横浜市内の国際交流グループ」による。

地域の日本語教室から～横浜市の場合～

③

■(財)横浜市国際交流協会の日本語教室運営

(財)横浜市国際交流協会(YOKE)
担当職員
日本語コーディネーター(臨時雇用)

日本語サポーター

「YOKEニューカマーのための日本語教室」

【考え方】

- 横浜で生活者として暮らす外国人住民への日本語初期指導を行う。
実践的な日本語をシステムティックに習得できる場を提供(モデル試行)

【実施概要】

- 学習者対象:横浜で新しい生活を始めたばかりの外国人住民。
入門・初級レベルの日本語学習者。
原則として期間中に継続しての勉強が可能な学習者。
- 学習者が週に2回(全20回/期、3期まで受講可)原則、定員36名/回。
有料:全20回で1万円前納
- 外国人住民への多言語での情報提供・生活相談サポートを行う。
→日本語学習だけでなく生活者としての外国人を総合的にサポート
・YOKE情報相談コーナーとのタイアップ、オリエンテーション実施

日本語サポーター条件:

- ①多文化社会づくりに関心がある人
- ②日本語ボランティア経験/指導経験がある人
- ③日本語教師養成講座420時間修了者、それ相当の知識と経験のある人

地域の日本語教室から～横浜市の場合～

④

■ 地域日本語学習の今後の課題

■ 恒常的な教室の確保

■ 指導者の安定した確保

■ 地域国際化協会などの公的な教室とボランティア教室の連携・役割の確認

■ 学習者と指導者をつなぐコーディネーターの養成・配置

■ 地域教室と相談・情報提供窓口との連携

日本語教員等の養成・研修に係る調査研究協力者会議
報告：(財)横浜市国際交流協会 甘楽(つづら)